エブリスディを服用される方、服用および経管投与のサポートをされる方へ

すべての革新は患者さんのために
中外製薬株式会社
ロシュ グループ

- このお薬は、調製前は粉末の状態であり、薬局などで精製水を加え液剤にしてお渡ししています。粉末の状態では絶対に服用しないでください。
- 口から服用すること（以下、経口投与）が困難な場合は、経鼻または胃ろうチューブから投与すること（以下、経管投与）が可能です。ご使用前に本リーフレットをよくお読みいただき、それぞれの手順に沿って、正しく服用もしくは経管投与してください。
- このお薬は冷凍を避け冷蔵庫（2～8℃）に瓶を立てて保存してください。また、必ず小児の手の届かないところで管理してください。

エブリスディ服用時に使用するもの

- お薬の瓶
- 専用のディスペンサー
- 「エブリスディを服用される方、服用および経管投与のサポートをされる方へ」（本リーフレット）

本リーフレット

瓶

ディスペンサー

8mLディスペンサーの1目盛りは0.2mLです。

※服用量によって、0.1mLごとの目盛りが付いた1mL/3mL/6mLのディスペンサーをお渡しする場合があります。

瓶にはディスペンサーでお薬を抜き取れるようアダプターが装着されています。

経管投与の方へ追加でお渡しするもの

- 経管投与用コネクタ（以下、コネクタ）

旧規格用コネクタ　または　新規格用コネクタ（ISO 80369-3）

コネクタの形状は、経鼻または胃ろうチューブの接続部の形状によって異なります。

経管投与の方には、ご使用の経鼻または胃ろうチューブの規格に合ったコネクタを、お薬やディスペンサーと一緒にお渡しします。

服用上の注意点

服用の手順は、経口投与の方はp.2を、経管投与の方はp.3、4をご参照ください

服用の方法

経口投与の方
- 医療機関で渡された専用のディスペンサーを使用して服用してください。
- お薬が口の中に残るのを防ぐため、服用後に水を飲んでください。

経管投与の方
- 医療機関で渡された専用のディスペンサー、コネクタを使用して投与してください。
- お薬が経鼻または胃ろうチューブの中に残るのを防ぐため、投与後に30～40℃の白湯10mL以上でチューブ内の洗浄（フラッシュ）を行ってください。

- 調合乳または母乳に混合しないでください。

服用時間

- お薬は1日1回食後、できるだけ同じ時刻に服用してください。
  予定時刻に服用できなかった場合は、服用予定時刻から6時間以内であれば、可能な限り速やかに服用してください。翌日はいつもの予定時刻に服用してください。
  服用予定時刻から6時間を超えた場合は、翌日の服用予定時刻に1回分の用量を服用してください。

経口投与の方
- お薬を服用後に吐き出した場合は、追加で服用せず、翌日の服用予定時刻に1回分の用量を服用してください。

経管投与の方
- お薬が経鼻または胃ろうチューブから漏れたり、詰まったりして投与を中止した場合は、追加で投与せず、翌日の投与予定時刻に1回分の用量を投与してください。

服用する量

- 服用する量は医師・薬剤師の指示に従い、ご自身の判断で変更しないでください。
- 間違えた量を服用した場合はただちに医師・薬剤師に相談してください。

取扱い上の注意点

保存方法

- 冷蔵庫（2～8℃）に瓶を立てて保存してください。
- 凍結を避けるため、冷凍庫の中や冷蔵庫の冷気の吹き出し口近くに置かないでください。
  凍結したお薬は服用しないでください。
- 遮光保存のため、お薬を別の容器に移し替えないでください。

お薬が体や服に付いた場合

- 皮膚や粘膜に触れた場合は石けんと水で十分に洗い流し、眼に入った場合は水でよく洗浄してください。
- お薬がこぼれた場合は水で湿らせたペーパータオルなどで拭き取ってください。

お薬が残った場合

- 服用期限を過ぎたお薬は服用しないでください。服用期限は瓶のラベルに記載しています。
- 各自治体のルールに従って廃棄してください。

服用の手順

経口投与（口から服用）される方

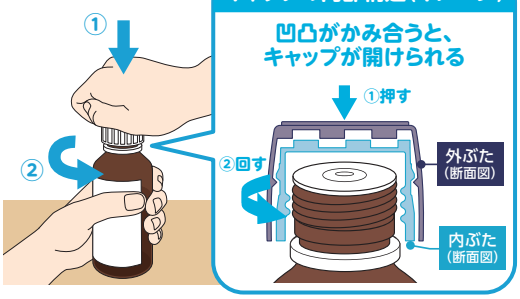
With your SMA
脊髄性筋萎縮症（SMA）にかかわるすべての人と歩む

中外製薬ウェブサイトにて服用手順などをご紹介する動画をご用意しております。
URLまたは二次元コードよりご覧ください。
https://with-your-sma.jp/patients/how-to-take.html

1

キャップをした状態で瓶を5秒間よく振る。

2

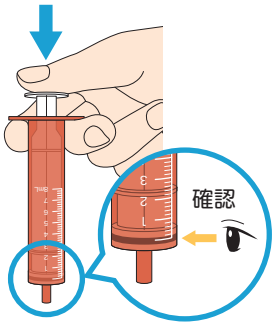


キャップを下に押しながら左（反時計回り）に回し、キャップ内部の凹凸がかみ合うことを確認した後、下に押した状態のままさらに左に回してキャップをはずす。

「カチッ、カチッ」と音がする場合は、キャップが空回りしています。

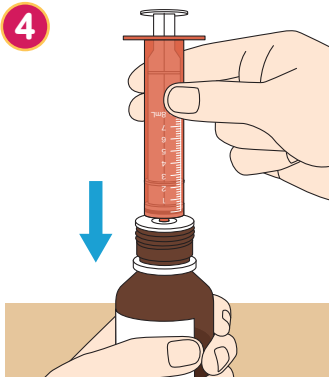
キャップを強く下に押しすぎると、キャップが破損するおそれがあります。

3



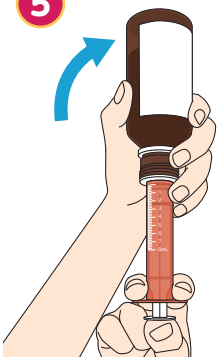
専用のディスペンサーを用意し、押し子が完全に先端まで押し込まれていることを確認する。

4



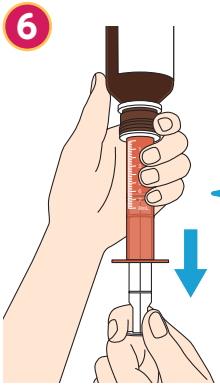
押し子に触れないようにディスペンサー本体を持ち、ディスペンサーの先端をアダプターにしっかりと差し込む。

5



ディスペンサーを挿入したまま、お薬の瓶を静かにひっくり返す。ひっくり返す際、押し子が先端まで押し込まれた状態を保つ。

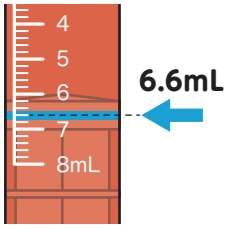
6



押し子をゆっくりと引き、正しい用量のお薬を抜き取る。
*内容成分が浮遊することがありますが安全性に問題はありません。

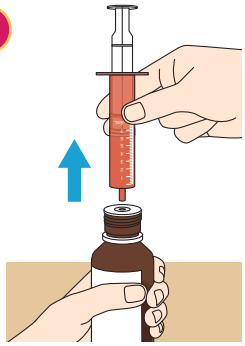
正しい用量を量るポイント

たとえば、6.6mLを量る場合
※8mLディスペンサーを使用する際のイメージ



押し子の先端の青いリングの中央が目盛りにくるまで押し子をゆっくりと引く。

7



ディスペンサーを挿入したまま瓶を立たせ、その後、ディスペンサー本体を持ってゆっくり引き抜く。
その際、押し子が動かないよう注意する。

8

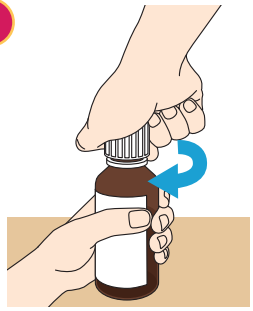
ディスペンサーを口に入れ、先端を頬の裏側へ向け、押し子をゆっくりと押して全量を押し出す。

お薬が口の中に残るのを防ぐため、服用後に水を飲む。

ディスペンサーでお薬を量り取った後は、ただちに服用すること。

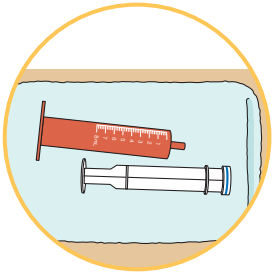
お薬をのどに直接流し込んだり、注入が速すぎたりすると、のどを詰まらせるおそれがあるので注意する。

9



キャップを右（時計回り）に回し、締める。

10



使用したディスペンサーの押し子をはずし、流水でよく洗い、乾燥させる。

*洗剤を使うと、押し子のゴムやディスペンサーの目盛りが薄くなるおそれがあります。

2023年3月改訂
EVR0010.03

投与の手順

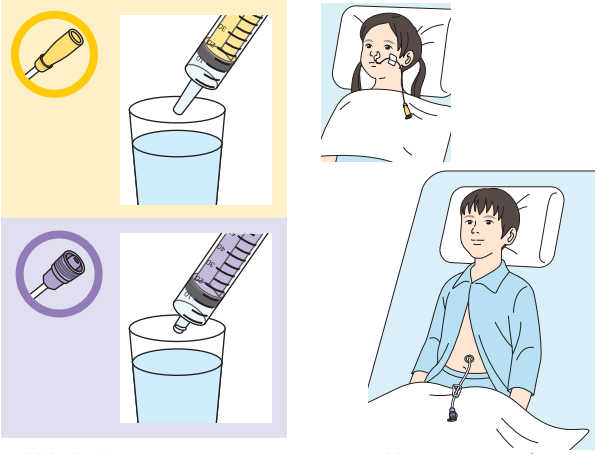
経管投与（経鼻または胃ろうチューブから投与）される方

投与前の注意点と確認事項

- お手持ちのシリンジ（容量：10mL以上）をご準備ください。
- 経鼻または胃ろうチューブ（以下、チューブ）の詰まりを防ぐため、必要に応じてお薬の投与前に、お手持ちのシリンジを用いて30～40℃の白湯20～30mLでチューブ内の洗浄（以下、フラッシュ）を行ってください。
- 体調に変化がないか確認してください。
- チューブが折れ曲がったり、抜けかけたりしていないか、漏れている箇所がないかを確認してください。

＊左記のマークがある箇所は、ご使用のチューブの接続部がどちらの形状かを確認し、該当する方の手順をお読みください。なお、接続部やシリンジの色味は、ご使用のものと異なる場合があります。

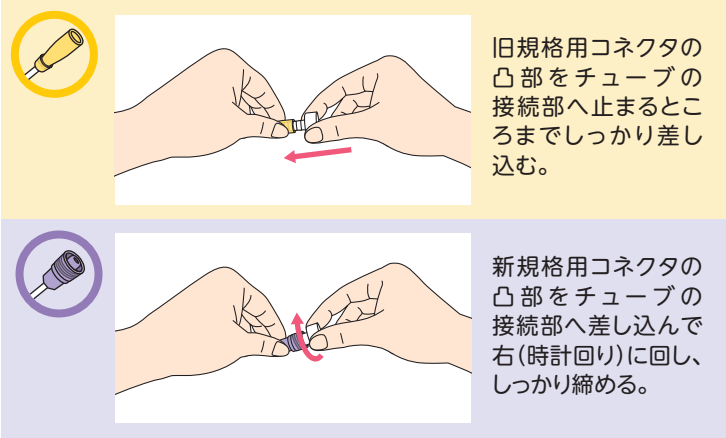
1



お薬投与後のフラッシュ用として、お手持ちのシリンジに30～40℃の白湯10mL以上を吸い取る。
清潔なタオルを接続部の近くに当てておく。

2 クランプを **閉めて** から

クランプ：チューブの開閉を行う器具



旧規格用コネクタの凸部をチューブの接続部へ止まるところまでしっかり差し込む。

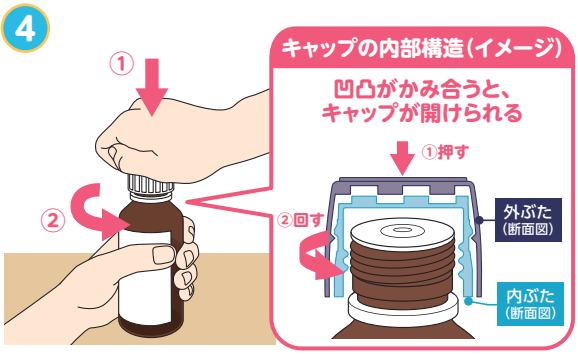
新規格用コネクタの凸部をチューブの接続部へ差し込んで右（時計回り）に回し、しっかり締める。

接続部の栓を開け、専用のコネクタをチューブへ接続して、清潔なタオルの上に置いておく。
＊逆流を防ぐため、チューブにクランプが付いている場合は必ず閉めた状態で栓を開けてください。

3

キャップをした状態で瓶を5秒間よく振る。

4

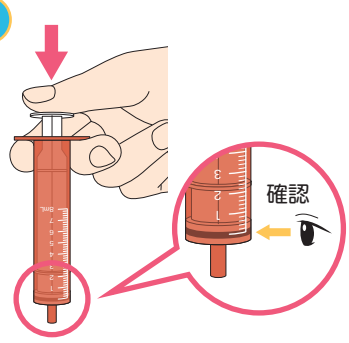


キャップを下に押しながら左（反時計回り）に回し、キャップ内部の凹凸がかみ合うことを確認した後、下に押した状態のままさらに左に回してキャップをはずす。

！「カチッ、カチッ」と音がする場合は、キャップが空回りしています。

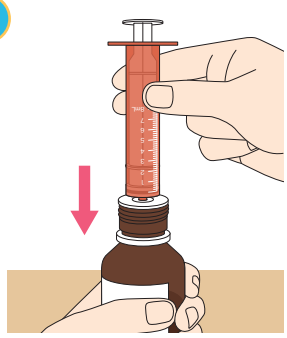
！キャップを強く下に押しすぎると、キャップが破損するおそれがあります。

5



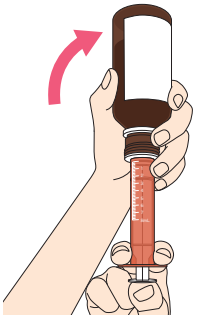
専用のディスペンサーを用意し、押し子が完全に先端まで押し込まれていることを確認する。

6



押し子に触れないようにディスペンサー本体を持ち、ディスペンサーの先端をアダプターにしっかりと差し込む。

7

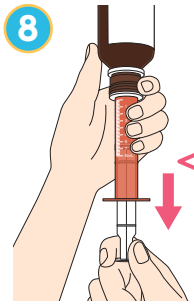


ディスペンサーを挿入したまま、お薬の瓶を静かにひっくり返す。
ひっくり返す際、押し子が先端まで押し込まれた状態を保つ。

With your SMA
脊髄性筋萎縮症（SMA）にかかわるすべての人と歩む

中外製薬ウェブサイトにて投与手順などをご紹介する動画をご用意しております。
URLまたは二次元コードよりご覧ください。
https://with-your-sma.jp/patients/how-to-take2.html

8



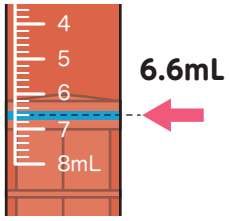
押し子をゆっくりと引き、正しい用量のお薬を抜き取る。

*内容成分が浮遊することがありますが安全性に問題はありません。

正しい用量を量るポイント

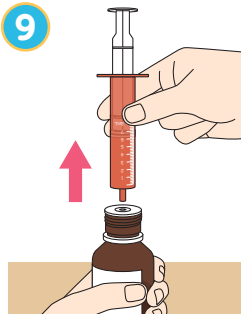
たとえば、6.6mLを量る場合

※8mLディスペンサーを使用する際のイメージ



押し子の先端の青いリングの中央が目盛りにくるまで押し子をゆっくりと引く。

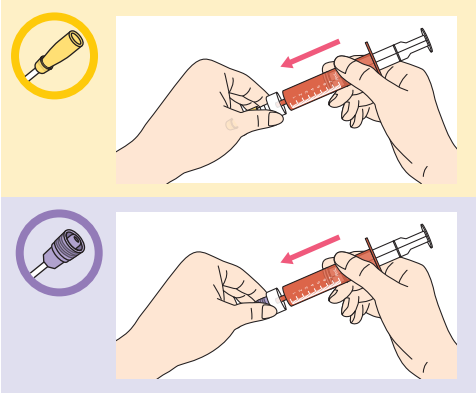
9



ディスペンサーでお薬を量り取った後は、ただちに投与すること。

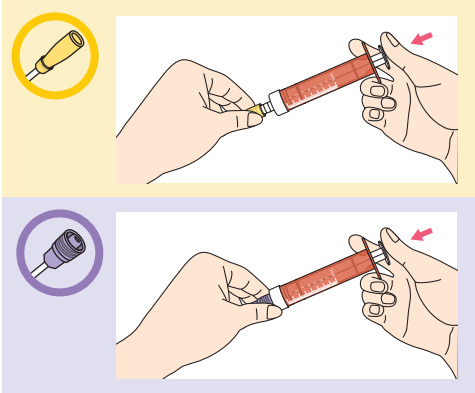
ディスペンサーを挿入したまま瓶を立たせ、その後、ディスペンサー本体を持ってゆっくり引き抜く。
その際、押し子が動かないよう注意する。

10



押し子に触れないようにディスペンサー本体を持ち、ディスペンサーの先端をコネクタにしっかりと差し込む。

11 クランプを開けてから



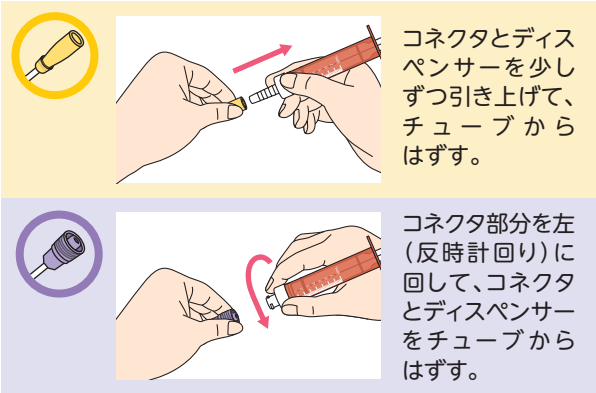
接続部を押さえながら、押し子をゆっくりと押して全量を注入する。

*チューブにクランプが付いている場合は、お薬を注入する前に必ず開けてください。

チューブに詰まりを感じたら、無理に注入を続けず、白湯でフラッシュを行ってください。
フラッシュを行っても、詰まりが解消されない場合は、医療機関にご連絡ください。

チューブが体から抜けた場合は、ただちに医療機関にご連絡ください。

12 クランプを閉めてから



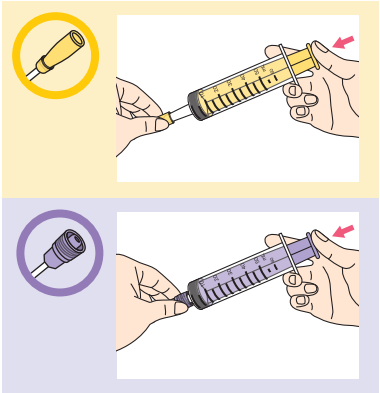
コネクタとディスペンサーを少しずつ引き上げて、チューブからはずす。

コネクタ部分を左（反時計回り）に回して、コネクタとディスペンサーをチューブからはずす。

コネクタとディスペンサーをチューブからはずす。

*逆流を防ぐため、チューブにクランプが付いている場合は必ず閉めてからコネクタをはずしてください。

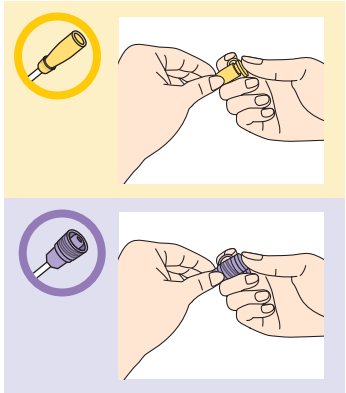
13 クランプを開けてから



お薬がチューブの中に残るのを防ぐため、接続部を押さえながら、1のシリンジでフラッシュを行う。

*チューブにクランプが付いている場合は、白湯を注入する前に必ず開けてください。

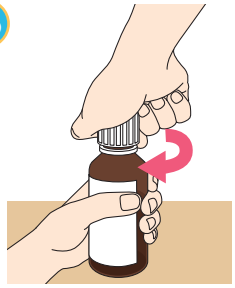
14 クランプを閉めてから



シリンジをはずして、接続部の栓を閉める。

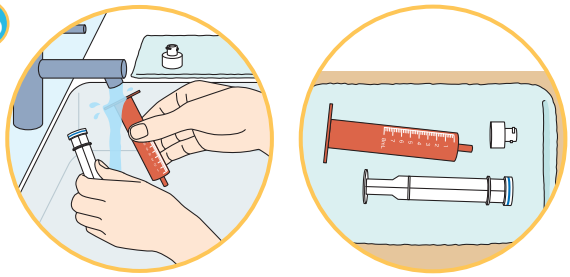
*逆流を防ぐため、チューブにクランプが付いている場合は必ず閉めてから栓を閉めてください。

15



キャップを右（時計回り）に回し、締める。

16



使用したディスペンサーからコネクタと押し子をはずし、流水でよく洗い、乾燥させる。
シリンジも同様に押し子をはずし、流水でよく洗い、乾燥させる。

*洗剤を使うと、押し子のゴムやディスペンサーの目盛りが薄くなるおそれがあります。

参考文献：医療情報科学研究所 編. 看護がみえる vol.2 臨床看護技術. 第1版. メディックメディア; 2018.